

はきごこちの良い靴について

昭和女大家政 猪又美栄子 ○近藤麻理 桑野桂

<目的> 近年靴に対する関心は高くなっている。しかしデザインを重視しサイズの合わない靴を履くことで、足の障害を引き起こすことがある。誰でも見た目に美しく、履いていて快適な“はきごこちの良い靴”を求めていると思われる。そこで、靴のはきごこちについて調査を行い研究を進めた。

<方法> 女子大学生 318人を対象にアンケートによる足・靴についての現状調査を行い、集計解析を行った。また、その中の44人を対象に足型・足長・足幅・足囲・について足部計測を行い、足の特徴、J I S規格における適正サイズとの適合について調査した。

<結果> アンケート結果から、被験者が回答したはきごこちの良い靴と悪い靴では、トゥの型やヒールの高さの結果に特に違いが見られ、はきごこちの良し悪しはトゥの型やヒールの高さが影響していると感じられていることが推察できる。通学時には、80%以上の人がはきごこちが良いと感じているものを履き、はきごこちが悪いものを履いている人はほとんど見られなかった。しかし、通学時以外に履く靴では、良いと感じている人が通学時より減り、どちらでもない、悪いと感じている人が増え、さらにハイヒールでは、約半数の人は、どちらでもない、悪いと感じていることがわかった。靴の平均所有数は3年生 10.6足、1年生 7.3足で学年による差がみられた。さらにアンケートで回答した足の特徴と実際の足部計測の結果を比較し、検討した。また、足部計測から求めたJ I S規格サイズにおける適正サイズと自称サイズとの適合性は高いとは言えず、J I S規格サイズに対する疑問点を見出だすことが出来た。